

忠僕爲助

帝キネ西屋時代映畫

監督者 江後 岳翠氏
撮影者 古林 潤氏

主要役割

忠僕爲助 明石 緑 耶氏
柳生重兵衛 尾上 紋十 耶氏
原田三郎兵衛 賀川 恒 清氏
原山卿太夫 片桐 恒 男氏
岡崎屋半次郎 片岡 紅三 耶氏
伊勢屋太兵衛 市川 福十 耶氏
仲間源内 市川 海老 三郎氏
岡島源三郎 高木 秀一 氏
姉妹お縫 山下 澄 子 嬢
お玉 泉 清 子 嬢

解説——義血——について江後岳翠氏が監督製
作した時代劇である。

略筋——名古屋の町の太物問屋伊勢屋太兵衛は
美しい愛娘二人が何よりの自慢だった。當時七
軒町に一刀流の道場を開く中国浪人原山卿太夫
は花のやうな姉妹お縫に思ひをよせ執念く縁談
を申込んだが體よ、断はられた。卿太夫は無謀
にも門弟共を煽り、姉妹の墓参の歸りを襲た。
丁度其折通りかいつた眞影流の達人原田三郎
兵衛と其僕爲助に救はれた。二人の姉妹にとつ
て三郎兵衛主従の男性的なけが深く心に映じ
たのであつた。然し其夜三郎兵衛は卿太夫の奸
計に陥り耐えられぬ侮辱を與へられ打撲傷を負
ひ病床に呻吃する身となつた。太兵衛は實を感
じ娘達をして三郎兵衛を看護せしめた。主を思
ふ爲助は悲憤に燃え復讐の機を狙ふ折柄劍聖重
兵衛の名古屋に來りしを聞き早速その門を叩
き情けに屈つた。爲助の忠義に愛でた重兵衛の
好意に彼は遂に卿太夫を打つた。忠僕爲助の評判は
人の響をよつたのであつた。忠僕爲助の評判は
普 響き彼は重兵衛の口添で忠義の龜鑑として
百石の侍分に異例の出世をした。慶事は尙も續
いて三郎兵衛はお縫と、爲助はお玉と重兵衛の
肝入りで目出度結ばれたのである。